

## 注 記

1908年のヘディン来日を記念した写真

- 写真－1 11月15日 東京地学協会 接迎式
- 写真－2 11月16日 華族会館 外務大臣招宴
- 写真－3 撮影日、場所不明 庭園のヘディン
- 写真－4 撮影日、場所不明 大森房吉、ヘディン、菊池大麓、小川琢治
- 写真－5 撮影日不明、大谷光瑞家 大谷光瑞一族とヘディン
- 写真－6 撮影日、場所不明 東郷平八郎元帥
- 写真－7 撮影日、場所不明 伊藤博文晩餐

以下、各写真とその裏面の記載及び和訳を記す。和訳は、スウェーデン在住の靑山孝雄・グンネル夫妻による。

写真-1 11月15日 東京地学協会 接迎式



写真裏面の記載

Geografiska Sällskapet i Tokio, 1908.  
Baron Kikuschi överlämnar sällskapet guldmedalj till Hedén.

地学協会；東京 1908

菊池男爵 ヘディン氏へ協会金メダルを献ず

注1) この式典と写真撮影は11月15日に行われた(東京地学協会,1909、安部弘敏,2014)

注2) 東京地学協会(1909)地学論叢第四輯ヘディン号114pの巻頭に同じ写真が「東京地学協会接迎式」として掲載されている。

文献

安部弘敏(2014)アルマ著"Mein Bruder Sven"が語るヘディンの来日 白須浄真編(2014)

大谷光瑞とスヴェン・ヘディンー内陸アジア探検と国際政治社会 勉誠出版 448p

314-353 p341

東京地学協会(1909)ドクトル・スウェン・フォン・ヘディン氏歓迎報告 地学雑誌

21-6 別冊 1-31 p10-14

東京地学協会(1909)地学論叢第四輯ヘディン号114p

写真-2 11月16日 華族会館 外務大臣招宴



写真裏面の記載

*Sven Hedin håller tal vid bankett i Peer's Club.  
T.v. utrikesminister, greve Komura.*

華族会館の饗宴にてスヴェン・ヘディンあいさつ 外務大臣小村伯爵（開催）

注) この宴は11月16日に行われた（東京地学協会, 1909）。

文献

東京地学協会（1909）ドクトル・スウェン・フォン・ヘディン氏歓迎報告 地学雑誌  
21-6 別冊 1-31, p19

写真-3 撮影日、場所不明 庭園のヘディン



写真裏面の記載

*Sven Hedén i Maras park.*

スヴェンヘディン；マーラの公園

写真-4 撮影日、場所不明 大森房吉、ヘディン、菊地大麓、小川琢治



写真裏面の記載

Geografiska Sällskapet i Tokyo.

東京地学協会

注) 前列左から大森房吉、ヘディン、菊地大麓、小川琢治

写真－5 撮影日不明、大谷光瑞家 大谷光瑞一族とヘディン



写真表面の記載

前列左から「Takiko、ヘディン、Kazuko 籌子、Kouzui Otani、Kinuko 絢子」

写真裏面の記載

Mishi Honganchi, Kyoto  
Kozui Otani and family

京都西本願寺 大谷光瑞と家族

注) 白須浄眞 (2014) は、被写体を前列左から Takiko (大谷武子)、ヘディン、Kazuko (大谷) 籌子、Kouzui Otani (大谷光瑞)、Kinuko (九条) 絢子、後列左から 藪田宗恵、大谷尊宝、大谷尊由、藤枝沢通、梅上尊融、岡賢雄としている。

文献

白須浄眞 (2014) ヘディンの西本願寺訪問とその記録写真 白須浄眞 (2014) 大谷光瑞とスヴェン・ヘディンー内陸アジア探検と国際政治社会 勉誠出版株式会社 448p 144-165

写真－6 撮影日、場所不明 東郷平八郎元帥



写真表面の記載

「To Professor Hedin With Best Wishes from Admiral Count H Togo」

写真裏面の記載

*This is Hedin dedicated portrait on arrival Togo.*

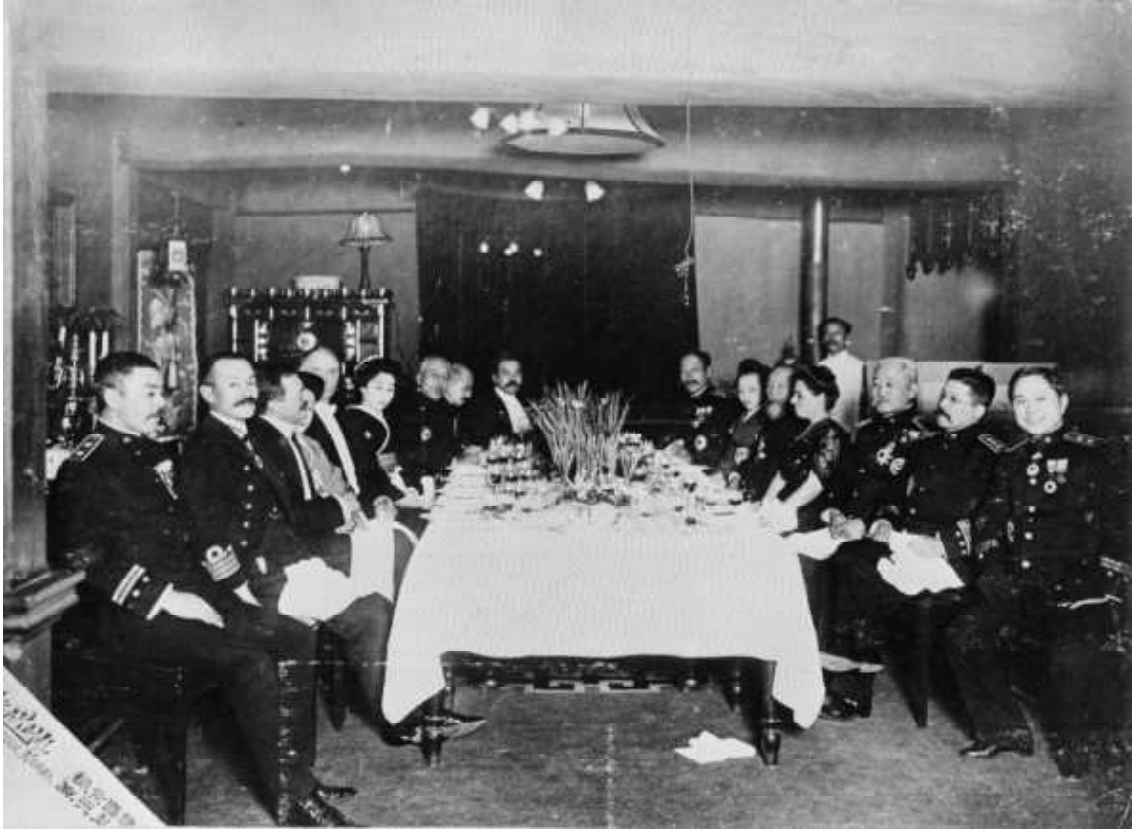
東郷元帥の肖像写真ヘディン氏（教授）へ献ず

注）11月26日の訪問（東京地学協会，1909）の際に贈呈された可能性がある。

文献

東京地学協会（1909）ドクトル・スウェン・フォン・ヘディン氏歓迎報告 地学雑誌  
21-6 別冊 1-31, p27

写真-7 撮影日、場所不明 伊藤博文晚餐



写真表面左下に、村上孝次郎が韓国ソウルに開業した天真堂写真館（徐東帝ら,2013）と思われるロゴがある

写真裏面の記載

Midtag för Prins Ito hos amerikanske generalkonsul Sammons,  
Korea 1908.  
Fr. v. Baron Satake, Kapten Tonami, Dr Hedus, Mrs Tonami, Thomas Sammons Esq.,  
Countess Kodama, Generalmajor Mourata, Count Kodama, Count Tsugarn,  
Keizo Ualeshima Esq., Countess Tsugarn, Prins Ito, Mrs. Thomas Sammons,  
Viscount Some, Ishizuka, Esq., Hisatama Funaya.

サモンズ米国総領事宅の伊藤公爵のための晚餐 1908 韓国

左側から佐竹男爵、外波大佐、ヘディン博士、外波夫人、トーマス・サモンズ氏、  
児玉伯爵夫人、村田少将、児玉伯爵、津軽伯爵、鍋島桂次郎氏、津軽伯爵夫人、  
伊藤公爵、トーマス・サモンズ夫人、曾禰子爵、石塚氏、古谷久綱



注1) 東京地学協会会員伊藤博文が帰路につくヘディンを朝鮮、満州に案内した時の一コマと思われる。各種情報により列席者の人物像を補足した(括弧内)。

佐竹男爵(義準: 統監秘書官)

外波大佐(内蔵吉: 当時の官職不明、後に総督府付武官)

ヘディン博士

外波夫人

トーマス・サモンズ氏(Thomas N. Sammons: 駐ソウル米国総領事)

児玉伯爵夫人(父の寺内正毅は後の第3代韓国統監で初代朝鮮総督)

村田少将(淳: 統監府付武官)

児玉伯爵(秀雄: 児玉源太郎子爵嫡子、後に総督府会計局長、総督官房総務局長、政務総監)

津軽伯爵(英麿: 統監府法制取調事務委嘱、韓国宮内府書記官)

鍋島桂次郎氏(統監府外務部長)

津軽伯爵夫人(照子: 歌人)

伊藤公爵(博文: 韓国統監)

トーマス・サモンズ夫人(Elizabeth)

曾禰子爵(荒助: 韓国副統監、後の第2代韓国統監)

石塚氏(英蔵: 統監府総務長官事務取扱)

古谷久綱(統監府総務部秘書課長)

参考) サモンズ氏について(ウェブサイト情報より)

◆ **Sammons, Thomas N. (1863-1935)** — of Chicago, Cook County, Ill. Born in New York, New York County, N.Y., February 7, 1863. Telegraph operator; newspaper reporter; newspaper editor and publisher; U.S. Consul General in Newchwang, 1905-06; Seoul, 1907-09; Yokohama, 1909-11; Shanghai, 1913-19; Melbourne, 1919-23. Died October 15, 1935 (age 72 years, 250 days). Burial location unknown.

Relatives: Son of John Sammons (1826-1888) and Julia (Flynn) Sammons (1828-1881); married, October 30, 1888, to Elizabeth Wheeler (1864-1940).

(<http://politicalgraveyard.com/bio/samalot-samples.html#358.24.58> ; 2019.9.9 閲覧)

文献

安部弘敏(2014) アルマ著"Mein Bruder Sven"が語るヘディンの来日 白須浄真編(2014)

大谷光瑞とスヴェン・ヘディン—内陸アジア探検と国際政治社会 勉誠出版 448p  
314-353

内山正熊(1981) 在外武官の研究 法學研究: 法律・政治・社会 54-3 9-58, p45

徐東帝・宮崎涼子・川寄陽・水野直樹・西垣安比古(2013) 「京城都市構想図」に関する研究 日本建築学会計画系論文集 78 1179-1186 注5)

永島広紀(2005) 日本における近現代日韓関係史研究 日韓文化交流基金日韓歴史共同

研究（第1期）第3分科報告書 301p 203-222, p205  
鍋島直大（1909）弔辞「伊藤博文」 地学雑誌 **21** 785  
藤村道生（1973）韓国侍従武官からみた日本の韓国併合 九州工業大学研究報告人文・  
社会科学 **21** 15-56, p43, 47, 52

#### ウェブサイト情報

ウィキペディア「曾禰荒助」（2019年9月9日閲覧）  
ウィキペディア「古谷久綱」（2019年9月9日閲覧）  
ウィキペディア「津軽英麿」（2019年9月9日閲覧）  
ウェブサイト「児玉源太郎の家系」  
(<https://keibatsugaku.com/kodama-2/> : 2019年9月9日閲覧)  
ウィキペディア「佐竹義準」（2019年9月9日閲覧）  
ウェブサイト「海軍兵学校卒業者一覧 海兵 11 期」  
(<http://kitabatake.world.coocan.jp/rikukaigun72.2.html> : 2019年9月9日閲覧)  
ウィキペディア「児玉秀雄」（2019年9月9日閲覧）  
ウィキペディア「鍋島桂次郎」（2019年9月9日閲覧）  
  
ウィキペディア「石塚英蔵」（2019年9月9日閲覧）  
ウェブサイト「Political-Graveyard U.S. consular officials in South Korea」  
(<http://politicalgraveyard.com/bio/samalot-samples.html#358.24.58> ; 2019年9月9日閲覧)

注2) ヘディン は自伝で、「ソウルでは、私は四日間伊藤公の客になった。彼は驚くべき率直さで、日本の政治的将来について語った。」と述べている（スウェン・ヘディン／山口四郎訳、1997）。また、この時伊藤は「日本は将来、東シベリアからバイカル湖ぐらいまでを支配するだろう」と語ったとする文献がある（金子、1988, p147）。この範囲は、シベリア出兵の際の日本軍の侵入範囲、東京地学協会による「東部西伯利亞鉦物分布図（1918）」、「200 万分 1 東亜地質図（1929）」のカバーエリアと同じである。伊藤はこの約 1 年後にハルビンで暗殺された（鍋島直大、1909）。

#### 文献

スウェン・ヘディン／山口四郎訳（1997）探検家としてのわが生涯（新装復刊）白水社 540p  
金子民雄監修（1988）スウェン・ヘディンと倭蘭王国展 日本対外文化協会 186p  
鍋島直大（1909）追悼伊藤博文 地学雑誌 **21** 785